

**厚生文教常任委員会  
視察研修報告**

**視察日**

平成24年2月8日～9日

**視察先**

鹿嶋市教育委員会  
木更津市社会館保育園

**視察内容**

鹿嶋市教育委員会では子どもたちの学校や教育環境の充実に向けた独自の取り組みがされていきました。

主な施策としては、小学校1年生を対象にした30人以下の少人数学級の実施と、県内初の試みとなる市独自の教員採用、英語教育特区の指定を受けて開始した英語活動、教職員の指導力向上を目指した「鹿嶋師範塾」、学校図書の実施を図るため司書を配置し、子どもたちの教育を支援する体制が整備されていきました。中でも、鹿嶋師範塾は、「鹿嶋っ子」を育てる教育の充

実と地域社会の教育への連帯感を育てることを目的に、学校教育支援者の養成、教職員の資質の向上、市民の教育への理解を深める等の実践的でシンプルな講座を開設しており、受講した教職員がそれぞれの学校でいろいろなことに取り組んでいること、市民の受講生も市内の各種団体の中で活躍していることから、人材育成や地域の関わり的重要性を再認識しました。

【鹿嶋市教育基本計画重点目標】

①豊かな心と生きる力の育成



②学力の確実な向上  
③郷土理解教育と国際理解教育の推進

④スポーツ・芸術文化活動の振興と市民交流の推進  
⑤安心して学べる教育環境づくり

この5つの目標を踏まえ、今後は、子どもたちが笑顔で「楽しい！」と言える学校を目指して、教育活動の質を高める指針を定め、施策を展開していくそうです。木更津市社会館保育園で

は、「自分は生まれてきてよかったのだ」と9歳までに確認させること、たとえ何があろうとも苦難を乗り越えて生きていける人を育てることという園長の願いから里山保育を開始し、園庭の改造計画に取り組みました。園庭が一年中同じ姿では退屈だろうと、平らであつた園庭が大変身。固定遊具をなくした手作りの園庭では、子どもたちが目を輝かせながら山に登り、泥を握る姿を目の当たりにして、本来の子ども姿を再認識しました。子どもはただ単に里山で遊ばせておけば育つのではない。本園では「子どもが何かを自分の力で追求していくためには、大人は見守る。大人が全てを段取りし、誘導指導し、完成させてはいけません。それは教育ではない。9歳までの教育とは、未完成な子どもたちを自発的に生きさせること」という教育方針が貫かれていました。

美浦村の教育行政全般に参考となる視察でした。これからの活動の中に役立たせなければならぬと痛感しました。

